

はじめに

NPO 法人エッジでは東京都港区と協働して特別支援教育の中でも通常学級で基本的に知的には遅れのない発達障害（LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、自閉症）などに対応する【学習支援員】制度を確立して来ました。

平成16年から協働は始まりました。港区のパートナーズ基金を利用して発達障害についての啓発や検討会を通じて港区におけるリソースとニーズの洗い出しをしました。17年度ではまず支援員養成講座を開催しました。現在と同じ14日間のプログラムです。18年度からは本格的に通常学級の中での支援が始まりました。

平成22年度末までに講座修了者は250名を超え、支援をした児童生徒は300名を越えています。一番の成果は支援員が付いた児童生徒で不登校になった者が0ということです。2年から3年で支援を必要としなくなるケースも多くあります。

特別支援教育の支援員については毎年地方交付税の形で各自治体に交付金があり、資金は無いわけではありませんが、うまく活用されているかといえばただ、ひとり人が増えただけという状態のところも少なくありません。

そこで、日本財団の助成金をいただき、この制度をそれぞれの地域にあった形にした上で普及する事業を平成21年から開始しました。選んだ地域は名古屋、明石、川越と宮崎です。これまで支援員制度に興味を示したリーダーがいる地域に飛び火してダイナミックに展開できればと考えてのことです。

平成22年度は2年目にあたり、各地では取り組みが始まっています。また、各地での取り組みを視察すると同時に港区個別支援室よりアドバイザーと室長が各地を視察し、フォローアップ講座を開きました。教育委員会との連携が進み始め、学校で支援員として活躍をする人も各地で増え始めました。

3年間のプログラムの2年目の報告です。3年目はより実質的にそれぞれの地域からまたさらに違う地域にも飛び火することを目指しています。

NPO 法人エッジ会長 藤堂栄子

発達障害を持つ児童生徒を対象にした 学習支援員の地域普及モデル事業の実施

特定非営利活動法人エッジ 藤堂栄子

事業内容

NPO 法人エッジが行っている東京都港区で学習支援員の育成事業を他地域へ拡げるため下記を実施した。

◆各地域における学習支援員養成講座の実施

1. 名古屋

日にち・場所

平成 22 年 9 月 10 日

名古屋市教育センター

参加人数

13 名（教育センター職員）、

藤堂栄子（エッジ）、

上田恭子（港区個別支援室相談員）

内 容

港区の学習支援員制度について、行政との協働についてのノウハウ、学習支援員の現場での支援の仕方などについて話す。

日にち・場所

平成 22 年 9 月 11 日

なごやボランティアセンター

参加人数

30 名、藤堂栄子（エッジ）、

上田恭子（港区個別支援室相談員）

内 容

● 講演「効果的な学習支援員の在り方を学ぶ」

藤堂栄子、上田恭子

港区の学習支援員制度の取組みと成果や今後

の課題、支援員の在り方などについて講演。

- 名古屋の学習支援員向けフォローアップセミナー
効果的な支援の方法や支援員の在り方などを話す。質疑応答。

2. 明 石

日にち・場所

平成 22 年 9 月 12 日

明石市生涯学習センター

参加人数

57 名（教育関係者、保護者、支援者など）、

藤堂栄子（エッジ）、

上田恭子（港区個別支援室相談員）

内 容

● 講演「港区の学習支援員の今」「保護者と教育機関と支援者の関係づくり」藤堂栄子

明石で実施している「学習サポーター養成講座」全 15 回内の 1 講座で、標記の内容を講演。

- 講座参加者との懇談

日にち・場所

平成 22 年 9 月 13 日

明石市教育委員会

参加人数

4 名（教育課指導主事、特別支援教育係長、支援者）、藤堂栄子（エッジ）、上田恭子（港区個別支援室相談員）

内 容

教育委員会への表敬訪問

日にち・場所

平成 22 年 9 月 13 日

りぼん教室

参加人数

7 名（団体事務局員、学習サポーター）、
藤堂栄子（エッジ）

内 容

意見交換会

3. 川 越

日にち・場所

平成 22 年 10 月 29 日

川越市の小学校、川越市教育センター

参加人数

10 名

内 容

- 学校内での自立支援サポーターの関わり方を視察
- 講演「港区・学習支援員はなぜ成功したのか？」藤堂栄子
- 川越の自立支援サポーター制度について話す

日にち・場所

平成 22 年 10 月 30 日

川越市教育センター

参加人数

15 名

内 容

- 講演「港区・学習支援員制度の成功事例等」藤堂栄子
- 自立支援サポーターからの事例報告とケースカンファレンス

4. 宮 崎

日にち・場所

平成 22 年 11 月 20 日、21 日

宮崎産業経営大学

参加人数

64 名、藤堂栄子（エッジ）

内 容

藤堂栄子が講師となり、下記の内容を実施

- 港区における特別支援教育と学習支援員の成果について
- NPO 法人エッジの紹介
- 自身の経験、ディスレクシアの子を持つ子育て体験談、障害の捉え方
- LD 疑似体験と対応の仕方
- 発達障害児の特性と理解
- 宮崎における特別支援教育の現状と課題
- 事例検討、質疑応答

◆日本 LD 学会 年次大会での発表とポスター発表

日にち・場所

平成 22 年 10 月 9～11 日

愛知県立大学 長久手キャンパス

参加人数

ポスター発表 30 名、自主シンポジウム 120 名
藤堂栄子（エッジ）、上田恭子（港区個別支援室相談員）、大庭亜紀（港区学習支援員）、伊藤祐貴子（港区学習支援員）、緒方明子（明治学院大学）、吉田やすえ（名古屋市学習支援員）

内 容

ポスター発表：「効果的な活用につながる学習支援員の養成とそのサポート体制のあり方に関する考察」

自主シンポジウム 1)：

自主シンポジウム 2)：

◆各地域へアンケート調査

実施時期

平成 22 年 11 月～平成 23 年 2 月

実施先

川越、名古屋、明石、宮崎の養成講座運営
代表者

目 的

- 各地域で実施した養成講座の事業成果や反省点を知るため。
- 参加者の感想から、次へつなぐ課題を明確にするため。

主な質問事項

- 講座の内容、参加人数、場所
- 運営者から見た講座への評価
- 地域の現状
- 今後の活動、課題

事業目標の達成状況

◆各地域における学習支援員養成講座

- 昨年度に比べ、講座参加者は一般の方よりも、実際に現場で働く支援員が多くみられた。彼らと話す場を設けることにより、現場の状況や支援の仕方など、講座がより具体的な内容となった。
- 今回は各地域で教育委員会の方と会う機会があり、市民団体だけでなく教育委員会と連携して、より当事業の普及につながることを実感した。また、教育委員会が港区（違う地域）の取り組みを知ることによって、各々の特徴や今後の課題に気づくことができたかと感じる。
- 地域へのアンケート調査から、参加した支援員同士で意見交換できたことも、悩んでいたことが解決され、他の現場の様子を知ることができ、今後の支援のヒントとなり、とても有効であった。
- 地域によって参加人数に差があり、これは

講座運営する団体の活動力に比例するかと思うが、まずは地域の特性を活かした形で活動していくことが第一である。

◆日本 LD 学会 年次大会での発表とポスター発表

地域での養成講座と同様、港区の取り組みを十分に発表できた場であった。また、かなりの聴講者数で、港区の取り組みに関心を持っている方が多いことがわかった。

質疑応答から、やはり、地域によってかなり差があることがわかった。

今回の発表は、港区におけるエッジの活動を多くの地域に知ってもらうことができ、成功であったと思う。

◆その他

- 名古屋では現在実験的な形で 1 校で支援員が活動しているが、来年度は、議会の予算要求で、16 校に 1800 万の予算が提案されている。当制度が導入されたとしても、行政が取り組むのか、民間に委託されるかは不透明。
- 明石では、来年度も引き続き、「学習サポーター養成講座」を実施する。また、学習サポーターのフォローアップ研修の充実を図る。
- 宮崎では支援員育成講座の前期を星槎教育研究所と協働で開催した。6 名終了している。教育委員会から 23 年度の予算化にあたり NPO 団体に支援員の育成と配置を委託する意向が伝えられている。講座修了者の中にはすでに支援員として学校に入った人もいる。
- 当普及事業をきっかけに、エッジは星槎教育研究所と学習支援員養成講座（平成 23 年 1～2 月）を横浜（30 名終了）、宮崎（6 名前期終了）で開催した。

事業成果物

報告書（25 ページ）×100 部⇒ウェブで公開
ニュースレターで発表
各所のチラシ、講座プログラム

”特別支援教育専門講座”

「効果的な学習支援員の在り方を学ぶ！」

----- 東京都港区の成果から -----



- 1部 講師：藤堂 栄子
(NPO法人エッジ会長、JDDnet理事、港区個別支援室室長)
- 2部 上田 恭子(港区個別支援室相談員、港区学習支援員)

日時：9月11日(土) 午前10時～12時 (開場9:40)

会場：伏見ライフプラザ12階
名古屋市中区栄1丁目23番13号 (052-222-5781)
地下鉄伏見駅下車 6番出口より南へ徒歩7分

参加費：無料 (お申込は不要です)

平成19年より、特別支援教育が始まり、通常学級に在籍する「特別な支援」を必要とする子どもたちに「特別支援教育支援員」をつけることが可能になりました。現在、全国の小・中学の98.4%が配置を達成しています。NPO法人エッジは、東京都港区と協働で平成17年度より全国に先駆けて「学習支援員」の養成を行い学校へ配置を行なってきました。学習支援員がサポートに入ることで、学校を休みがちだったお子さんが元気に登校ができるようになり、お友達関係もよくなった、等の多くの成果が報告されています。また、学習支援員を配置をした後も、より現場に密着した支援が行えるように、毎月1回支援員のためのフォローアップセミナーを行い研鑽をしています。この取り組みの仕組みと成果について詳しくお話ししていただきます。また、2部では、港区の学習支援員としてご活躍の上田先生に、支援員として研鑽されてきた経緯をご紹介いただきます。また、モデルとされているイギリスの学習支援員の制度についてもお話をしして制度についてもご紹介をいただきます。来年度から始まる「大学入試センター試験の特例措置」など、今後の特別支援教育の展開についても情報をいただけます。多数の方のご来場をお待ちしています。

経 歴

慶応義塾大学法学部政治学科卒業、文部科学省特別支援教育ネットワーク推進委員会委員
ご子息が15歳で留学した英国でディスレクシアと診断され、英国で受けたサポート体制を日本でも出来る仕組みを作ろうと、NPOを2001年に設立、東京都港区に学習支援員の導入をする。
啓発活動と世界各国の対応を学び、一生を通じての支援を目指して活動をしている。

著 書 紹 介

「ディスレクシアってなあに？おともだちの障がい 知りたい、聞きたい、伝えたい」
ローレン・E・モイニハン〔著〕藤堂栄子〔訳〕明石書店
「ディスレクシアでも大丈夫!」藤堂栄子著、ぶどう社出版

主催：ディスレクシア協会名古屋・子ども支援室カシオペア

お知らせ！

2010年9月、10月に「特別支援教育支援員(学習支援員)秋の養成講座」を実施します
公開講座については、若干お席がありますのでご参加をお待ちしております。

講座の内容は、こちらのホームページをご覧ください。<http://sites.google.com/site/kodomosien/home>

★ この支援員養成講座の問合せ、子ども支援室カシオペア(090-1285-1042):メール kodomosien@gmail.com

学習支援員の地域普及事業 報告書

実施団体 名古屋

9月10日(金)

午前10時～12時

名古屋市教育センター

「東京都港区のLSAについて」

職員研修 13名

評価 非常に参考になり、大変よかったとのご返事をいただいております。

下記は、教育センターの相談部、特別支援教育研究室長の藤本泰孝先生からいただいたメールです。

> 藤堂さんのご訪問とご講演では、参加した所員皆、とても感激しておりました。

> わたくしも、あこがれの方でしたので、本当にうれしく思いました。

この日は、夕方、四日市の子ども支援センターへ行かれました。

当方からは、粕谷と小島が同行させていただきました。

9月11日(土)

午前10時～12時

なごやボランティアセンター(チラシを添付)

「効果的な学習支援員の在り方を学ぶ」

参加人数 30名

評価 毎回ですが、大変に好評です。上田先生のお話も具体的で皆さんにとって大変に参考になりました。

午後12時～15時

東鯨本店個室にて

名古屋の学習支援員のフォローアップセミナー

参加人数 18名

評価 支援員にとって、日頃から疑問に思っていたことに対して、ズバリお応えをいただき助かりました。

評判は、もちろん非常によかったです。

特に、学習支援について、指さしだけでなく、担任のいる教室での支援方法をお聴きできて非常に助かりました。

名古屋市の現状

現在、植田東小学校 1校(モデルとして)

支援員 13名

フォローアップは、月1回…学校内の特活室で、校長、コーディネーターと

月1回…学年単位で、学年の先生とその学年に入っている支援員とで話合う

2回(6月～12月)…子ども支援室カシオペア(ディスレクシア協会名古屋協働で)フォローアップを行なう

今後の活動 名古屋市議会の予算要求で、16

校に1800万の予算が提案されました。

結果がわかるのは、2月末になるということで、現在は不透明です。

今後の課題 仮に名古屋市に「支援員」の制度が導入されても、その派遣業務等を私ども民間に委託されるかは名古屋市の意向ですので、こちらも不透明です。

第3機関としての委託業務が当方にくることを想定して、準備を進めているところです。

子どもたちのための 自立支援サポーター制度を さらに良くしていこう！

～教室の中で 自立支援サポーター が
効果的なエンパワメントを行うために～

- 落ち着きがない
- 忘れ物が多い
- 読み書きが苦手
- 友だちと上手く付き合えない
- 集団生活がうまく出来ない
- ルールを理解することがむずかしい
- 暴力、暴言が多い
- わがままな行動をとる
- 運動バランスが悪い
- …など

このような子どもたちを学校の中で支援している先生方やサポーターの方たちの相談や質問に、藤堂栄子先生がお答えします。

2010年

10月30日（土）

時 間 : 午前 10 時 ～ 12 時

場 所 : 川越市教育センター分室「リバーラ」

川越市大字的場2649-1 Tel. 049-234-8333

講 師 : 藤堂 栄子氏

港区の「学習支援員制度」はなぜ成功したのか？
成功事例・失敗事例等

参加費 : 無 料

共 催 : NPO 法人 エッジ

NPO 法人 チューリップ元気の会

後 援 : 川越市教育委員会

※問合わせ申し込みは、ウラ面をご覧ください。

☆藤堂 栄子 氏 プロフィール☆

港区個別支援室室長/NPO 法人エッジ会長/(有)藤堂事務企画代表
慶応義塾大学法学部政治学科卒業、文部科学省特別支援教育ネットワーク推進委員会委員
1995年より翻訳通訳、国際企画等の仕事のかたわら、NPO 法人エッジの会長としてLD(学習障害)の中核症状であるディスレクシアの啓発、サポート、国内外のネットワークに取り組む。
現在、東京都港区との協働事業として個別支援室運営。通常学級内にいる特別なニーズのある子どもへの支援は文部科学省から全国の先駆的モデルとして期待されている。
「ディスレクシアでも、大丈夫！ ～読み書きの困難とステキな可能性」ぶどう社刊
「ディスレクシアってなあに？」明石書店・翻訳など著書、論文多数

~~~~\*~~~~\*~~~~\*~~~~ 《 研修会参加申込書 》 ~~~\*~~~~\*~~~~\*~~~~

### 子どもたちのために 自立支援サポーター制度を さらに良くしていこう！

\* 各項目をご記入の上、切り取らずにそのまま FAX してください。

氏 名 \_\_\_\_\_ (男性・女性) 年齢( 10 歳代 ・ 20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代以上 )

お住まい 〒 \_\_\_\_\_

連絡先 TEL \_\_\_\_\_ E-mail : \_\_\_\_\_

お立場 特別支援教育コーディネーター ・ 支援サポーター(小学校 ・ 中学校) ・ 特別支援学級(支援員・介助員)

特別支援学校 ・ その他( \_\_\_\_\_ )

\* 上記(お立場)の該当するものに○を付けて下さい。

### 《お問合せ&お申し込み》

#### ★NPO 法人チューリップ元気の会

Te l & FAX : 049-246-2050 E-mail : tulipgenki@yahoo.co.jp

※お申し込みは、上記に記入して FAX するか、E-mail にてお願いいたします。

※御記入いただいた個人情報につきましては、当会の「個人情報とプライバシーの保護に関する方針」に基づいて適切な情報管理をさせていただきます。

# 研修会日程

---

2010年

10月29日(金)

☆午前10時～12時：「高階北小学校」にて

- 学校内での自立支援サポーターの関わり方を視察する

☆午後1時～：川越市教育センター分室

「リベラ」にて

- 講師：藤堂 栄子氏  
講演「港区・学習支援員制度はなぜ成功したのか？」
- リベラの役割と川越の自立支援サポーター制度について

10月30日(土)

☆午前10時～12時：川越市教育センター分室

「リベラ」にて

- 藤堂 栄子氏  
講演「港区・学習支援員制度の成功事例等」
- 自立支援サポーターの方からの事例報告とケースカンファレンス。

〈参加したかたの感想〉

\*指導員として仕事をしていますが、指導員としての勉強会をもっとしてほしい。

\*自立支援サポーターです。毎日子ども達と楽しく接しています。知らない事だらけですが、支援にあたっては子ども達が生き生きしてられるように、よく観察して気付いてあげられるように、と心がけています。さらに色々な事を勉強する機会や現場の体験など聞かせて頂けるチャンスがあれば参加して行きたいと思います。

\*本日の講演に参加でき、藤堂先生のお話と共にアドバイス、そして参加者のかたの現状のお話が聞け、参考になりました。今後もこのような会があれば参加したいです。

\*色々な子ども達がいる中で、どのように対応したらよいか迷う事がたくさんあります。今日のお話を聞いてたくさんのヒントを頂き来週から実践して行きたいと思います。同じ立場で仕事をしている方々と交流をもてた事も嬉しく思いました。ありがとうございました。研修や体験談などを聞ける機会がたくさんあるとよいと思います。

9月12日(日)  
公開講座 タイムスケジュール

| 時刻    | 時間数  | 担当者                    | 内容                                                           |
|-------|------|------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 10:00 | 10分  | 司会(清水)<br>田坂<br>司会(清水) | 開始のあいさつ<br>主催者あいさつ<br>本日のスケジュール案内<br>講師紹介                    |
| 10:10 | 110分 | 田中裕一先生                 | 通常学級の中での支援<br>特別支援学級の中での支援<br>保育所、幼稚園での支援                    |
| 12:00 | 5分   | 司会(清水)                 | 振り返りシートの記入<br>休憩の案内                                          |
| 12:05 |      | 古瀬                     | 受講生へ実習(スポーツ教室)の案内と<br>日程調整                                   |
| お昼休憩  |      |                        | 質問票の回収                                                       |
| 13:00 | 60分  | 司会(清水)                 | 開始のあいさつ                                                      |
|       |      | 田中裕一先生                 | 質問票への回答<br>授業スキルの具体的な使い方<br>保護者と教育機関と支援者の関係づくり<br>(学校側の立場から) |
| 14:00 | 60分  | 田坂                     | 藤堂さんの紹介                                                      |
|       |      | 藤堂栄子さん                 | 港区の学習支援員の今<br>保護者と教育機関と支援者の関係づくり<br>(保護者、支援者の立場から)           |
| 15:00 | 5分   | 司会(清水)                 | 振り返りシートの記入<br>終了のあいさつ                                        |
| 休憩    |      |                        | 会場の設営                                                        |
| 15:20 | 60分  | 田坂                     | 懇談会(田中先生+藤堂さん+希望者)                                           |
| 16:20 |      |                        | 終了                                                           |

日本財団助成事業

# 学習支援員の地域普及事業 報告書

実施団体 りぼんネット (NPO 法人市民サポートセンター明石)

## ①-A 「学習サポーター養成講座」

### 全 15 回の内第 12 回

9月12日(日) 14:00～15:00

明石市生涯学習センター

(内 容) 講演 藤堂栄子

テーマ 「港区の学習支援員の今」  
「保護者と教育機関と支援者の関係づ  
くり」(保護者、支援者の立場から)

(参加者)

|        |    |        |    |
|--------|----|--------|----|
| 明石市内   | 25 | 保護者    | 9  |
| 神戸市内   | 12 | 教育関係者  | 25 |
| 兵庫県内   | 18 | 支援者    | 11 |
| 兵庫県外   | 2  | その他    | 12 |
| 計 57 名 |    | 計 57 名 |    |

## ①-B 講座参加者との懇談

9月12日(日) 15:20～16:40

明石市生涯学習センター

(参加者) エッジ 2

講座参加者 11

講師、スタッフ 8 計 21 名

※午前中の講師が特別支援学校の教師だったので保護者、支援者という立場から藤堂さんにお話だけたのが、それぞれの立場を考えるきっかけとなり、好評だった。「やる気をつまないうで」という藤堂さんの言葉に多様な参加者から、勇気を与えていただいた等の感想が届いた。

## ②-A 明石市教育委員会への表敬訪問

9月13日(日) 10:00～11:40

明石市役所

(出席者) 明石市教育委員会

学校教育課指導主事 福田篤世

特別支援教育係長 赤松康夫

NPO 法人市民サポートセンター明石

代表 田坂美代子

明石 LD を考える会

代表 片岡加代子

## ②-B 意見交換会

9月13日(日) 13:00～15:00

りぼん教室

(参加者) エッジ 藤堂栄子

りぼんネット 事務局 3名

学習サポーター 4名

※教育委員会への表敬訪問は、議会開会中であったため教育長にお会いすることはできなかったが、担当者2名が熱心に話を聞いてくださった。「丁寧にお話くださったので、港区の取り組みがよく分かりました。ありがとうございました」と、お礼を言っていた。

※教育委員会との良好な関係づくり、又サポーターが学校で活動することについて一歩前進できたのではないかと、団体として大変ありがたかった。

意見交換会では、実際に学校へ入っているサポーターが藤堂さんに親しく話をすることができて、新たなエネルギーをいただいたと喜んでもらった。

## 〈今後の活動〉

### ①学習サポーター養成講座の開催

2011年6月～9月 全15回 30時間  
市教委の要請により小学校で活動できるサポーター、及び民間塾や保護者の依頼を受けて活動できるサポーターを養成する。

### ②フォローアップ研修の実施

学習サポーターをはじめ、何らかの形で発達障害児に関わって支援している人に対して、専門家を招いて研修会を開く。

### ③市教委へ待遇改善の要望

現在の「特別支援教育サポーター」は4時間で図書券2000円のボランティアである。金額のアップおよび支給方法と、給食の支給を要望していく。

## 〈今後の課題〉

### ①講座開催資金の確保

市との協働事業として来春申請する予定であるが、採択されるかどうかは分からない。もし不採択の場合は、別途助成金を検討する。

### ②学習サポーターの活躍の場の確保

市教委からの要請は、まだ極わずかである。人材養成しても、活躍の場がなければ意欲のある講座参加者が集まらなくなるので、様々な活躍の場を作っていきたい。

# せんせい、大好き！と言われたい

《発達障害児のための2日連続特別講座》

日 時：2010年11月20日（土） 11：00～16：00  
21日（日） 10：00～16：00

場 所：宮崎産業経営大学 5号館2階  
宮崎市古城町丸尾100番地  
(TEL) 0985-52-3139

講 師：NPO 法人 EDGE 会長 藤堂栄子氏

## ★11月20日（土）★

11：00～12：00

発達障害ってこんな感じです「私・息子・NPO 法人 EDGE の紹介」  
「港区における特別支援教育と学習支援員の成果」

13：00～15：00

子どもになってみよう「LD 疑似体験と対応の仕方」「発達障害の特性と理解」

15：00～16：00

訊いてみよう 困っていることⅠ「うちの学校の場合」

## ★11月21日（日）★

10：00～12：00

みんなで考えようⅠ「宮崎における特別支援教育の現状と課題」

13：00～15：00

みんなで考えようⅡ「事例検討」

15：00～16：00

訊いてみよう 困っていることⅡ「うちの学校の場合」

## 講師プロフィール

慶応義塾大学 法学部 政治学科卒業 文部科学省特別支援ネットワーク推進委員会委員

1995年より、NPO 法人 EDGE の会長としてLD（学習障害）の中核症状であるディスレクシア（読み書き障害）の啓発、サポート、国内外のネットワークに取り組む。現在、東京都港区との協働事業として個別支援室を運営、学習支援員の養成・派遣を行う。

主 催：宮崎LD・発達障害親の会「フレンド」

共 催：NPO 法人 EDGE

後 援：宮崎市教育委員会

# せんせい、大好き！と言われたい 報告書

## 《発達障害児のための2日連続特別講座》

### 〔プログラム内容〕

#### ★20日(土)★

- 発達障害ってこんな感じですよ  
「私・息子・NPO法人EDGEの紹介」  
「港区における特別支援教育と学習支援員の成果」  
藤堂さんの自己紹介的な内容です。  
藤堂さんご自身の経験、ご家族のこと、息子さんの子育てや、障害の捉え方、港区のことなどをお話していただきました。

- 子どもになってみよう「LD疑似体験と対応の仕方」  
「発達障害児の特性と理解」  
分からない上、先生からプレッシャーをかけられる切羽詰った状態を体験することで、子どもの感情を実感しました。

- 訊いてみよう 困っていることⅠ「うちの学校の場合」  
事例を挙げながら、具体策について考えました。  
すぐに対応が必要と思われる件は、終わってから藤堂さんと宮崎市教委の担当と話し合いました。

#### ★21日(日)★

- みんなで考えようⅠ「宮崎における特別支援教育の現状と課題」  
宮崎の現状として、まだ発達障害に関する知識が足りないということがありましたので、障害特質や対応についてのお話でした。
- みんなで考えようⅡ「事例検討」  
関係機関、使えるリソース、子どものニーズを整理し、長期的な目標を持って取り組むと

いう内容でした。

- 訊いてみよう 困っていることⅡ「うちの学校の場合」  
グループに分かれて、困っていることや、うまくいっていることなどを自由に話し合い、それぞれ代表が発表しました。幾つか共通する問題点が、浮かび上がりました。

### 〔参加人数〕

20日(土) 36名  
21日(日) 28名

### 〔場 所〕

宮崎産業経営大学 5号館 5212 講義室  
宮崎市古城町丸尾 100 番地

### 〔評 価〕

アンケートからピックアップします。  
内容が具体的で、分かりやすかった。今後活かして行きたい。  
悩んでいたことが解決された。他の学校の様子を知ることができた。  
疑似体験、事例検討などを通して、今までの対応のまずかった点や、10年後、さらには大人になった時、生きていくのに何が必要かという長期的な観点から今の目標を持つことの大切さに気づいた。  
疑似体験を、校内研修でも行いたい、周囲に伝えたい。  
個別の質問ができる時間や、グループディスカッションの時間がもう少し欲しかった。宮崎の問題点が浮き彫りになった。  
中身の濃い研修で、来年も是非参加したいという声も多くあがりました。

## 【現 状】

入っている学校数 40 校

支援員人数 40 人

フォローアップについて、1 ヶ月毎の報告書を校長先生と市教委に提出、主に校内で対応しています。学校で対応しきれないところは、市教委や特別支援学校からアドバイスももらいます。後は年に2回の研修があります。

## 【今後の活動】

当面の取り組みとして、1月から2月の支援員養成講座を、TV会議システムで宮崎でも開催を計画中です。

今回の研修で、支援員同士のつながりが無

く、情報交換の場があるだけでも助かるという声も挙がりました。できることから取り組みたいと思います。

## 【今後の課題】

学校も支援員もバラバラな認識で、立場も不安定という問題が挙がりました。

それぞれの役割分担がうまく行くように、支援員の研修の充実、さらには先生方の研修内容も検討する必要があるのではないかと思います。

支援員の数を増やす見込みは薄いことから、もっと融通の利くシステムを考えることも課題です。



# 効果的な活用につながる学習支援員の養成とそのサポート体制のあり方に関する考察

○上田恭子 藤堂栄子 大庭亜紀

(港区個別支援室) (NPO 法人エッジ) (NPO 法人エッジ)

## 1. 目的

平成17年に港区とNPO法人エッジとの協働事業として、個別支援室が開設された。この個別支援室では、特別支援教育支援員（港区ではLSA：ラーニングサポートアシスタントという名称）の養成のため、平成17年8月から22年1月現在まで、計8回の学習支援員養成講座を開設してきている。232名の受講生があり、その中から125名が学習支援員として港区立の小中学校に配置されて、特別な教育的ニーズをもつ児童生徒の支援にあたってきた。

また、個別支援室では、派遣されている学習支援員に対するサポート体制として、毎月の報告書に対するアドバイスや、必要に応じての面談、メールや電話による相談も行っている。平成18年度からは、資質向上を目的とした「フォローアップ講座」を開設し、学習支援員としてのスキルアップの場を設定してきた。

特別な教育的ニーズをもつ児童生徒への支援に関しては、その特性の理解や課題に応じた目標の設定、具体的で有効な支援方法の活用といった専門的な知識が必要である。更に、当該児童生徒を含め、担任や関わる大人たち、また周囲の子どもたちとの人間関係を作る技量も効果的な支援のためには必要不可欠である。また学習支援員自身がその支援の効果を実感として捉えることができ、精神的に安定した関わりをもって日々の支援にあたることも大切であろう。

第一期の養成が始まって5年目に至る現在、こうした視点から、現在の養成講座の内容やフォローアップの体制について、再度捉え直し、吟味することを本研究は目的としている。

## 2. 対象と方法

平成21年度までに港区立の小中学校に派遣された経験のある学習支援員112名に対し、養成講座やフォローアップ講座、また、フォロー体制に関するアンケート調査を実施し、約半数の55名から回答を得た。

### 【アンケート】

- ①多肢選択法による調査
- ②自由記述による調査

### 【回答者の内訳】

性別：女54名、無記入1名

年代：20代：1名、30代：5名、  
40代：26名、50代：17名、  
60代：6名

平均担当ケース数：3.4 ケース

## 3. 結果

### 1) 養成講座に関わる調査

- ①現場に入って特に役に立った講座（全25講座のうち、60%以上の支持があったもの）  
発達障害とは・当事者の声・ソーシャルスキルトレーニング・LD擬似体験・実践的指導法・LSAの体験談
- ③今後新たに取り入れてほしい内容（自由記述、1名以下の回答は省略）  
教職員、スクールカウンセラー等も含む学校内での人間関係のとり方や、学習支援員の校内における位置づけ（10名）・具体例を通じた障害のある子ども一人ひとりの理解（7名）  
・健常の子どもたちの発達（思春期を含む）や、関わり方（5名）・医学的知識・投薬に関すること、また特に「てんか

- ん」の症状（3名）・授業で使える支援のアイデア（3名）
- ・具体的な問題行動への対処法（2名）
- 2) フォローアップ講座に関わる調査
  - 平均参加回数：3.2回
  - ①現場で特に役に立った講座（全19講座のうち、20名以上の支持があったもの）
    - ・ソーシャルスキルトレーニング・LSAの情報交換会・個別の指導計画作成実践講座
    - ・思春期の子どもへの対応と特徴
  - ②今後新たに取り入れてほしい内容
    - ・LSA相互の事例検討会（3名）・具体的な教科の内容（作文、技能教科）2名
- 3) フォロー体制改善に関わる調査
  - ①派遣対象児童・生徒に関する情報説明
    - 個別支援室から（46名）・学校から（24名）
  - ②毎月の報告書の目標設定
    - 担任から個別の指導計画に基づいての提案で共通理解（4名）・担任からその時々  
の提案で共通理解（20名）・LSAからの  
提案で共通理解（31名）・LSAが決めて  
共通理解（9名）・共通理解されていない  
（11名）
  - ③月の報告書へのコメント
    - 役立っている（44名）・役立っていない  
（2名）・どちらともいえない（9名）
  - ④支援内容に関して保護者と話し合う機会  
ある（30名）・ない（23名）
  - ⑤話し合いの効果・支障
    - 効果あり（35名）・支障あり（2名）
  - ⑥話し合いの必要性
    - 必要（16名）・必要でない（0名）・ど  
ちらともいえない（10名）
  - ⑦個別支援室による学校訪問
    - 必要（31名）・必要でない（2名）・ど  
ちらともいえない（22名）
  - ⑧今後望まれるフォロー（1名以下省略）
    - 先輩LSAの体験を聞く機会・使用支援  
ツールの共有（4名）・個別支援室による

定期的な個別面談（4名）・個別支援室による来校（3名）・個別支援室が中心になった関係者顔合わせの機会の設定（2名）・保護者との連携の仲立ち（2名）

#### 4. 考 察

##### 1) 養成講座の今後のあり方

発達障害に関する基本的な知識は別として、その他は実践的なもの、具体的なものが特に必要とされている。また「当事者の声」は、フォローアップでは取り上げてはいないことでもあり、今後も積極的に取り入れる必要があるだろう。

今後は、教育の一端を担う学習支援員としての校内における立場を明確にすることや、教職員等との関係作り、実際の子どもの一人ひとりをどのように捉えるかその具体的な観察の視点や方法、またいわゆる健常の子どもたちとの関わり等も視野に入れた講座内容の充実が望まれる。特に具体的な場を想定して、実践的な内容を検討する必要があるだろう。

##### 2) フォローアップ講座の今後のあり方

これまで、学習支援員相互の情報交換の場は講座の中に取り入れられていたが、現場に入って一人ひとり異なる具体的な課題にぶつかった時、単なる情報交換ではなく、事例を明確にした検討会のようなあり方を望む声が目立った。更にスーパーバイザーが同席することにより異なった見地から多面的に各自の取り組みを考察できる機会となるのではないと思われる。従来の内容に加えて、計画的に取り入れていくことが必要であろう。

##### 3) フォロー体制の改善について

支援対象の児童・生徒に関する情報の入手や、支援にあたっての目標作成に関する結果から、学習支援員という存在が、現場で教員を補佐していくチームの一員としてまだ十分機能していないことを物語っている

のではないかと考えられる。養成講座の希望内容として、学習支援員の立場、位置づけといったことに関するものが多かったこととも合わせて、今後十分検討する必要があると思われる。

学習支援員は、現場の自分の支援活動に対して、これでいいのだろうかという不安を抱いている。月の報告書に対するコメントは、精神的な安心感や励ましとしては効果があるかもしれないが現場を見てのコメントではないため、実際的ではない。効果的な支援のためには、自分の支援について学校現場の中で評価されていくような校内での関わりこそが必要であると考えられる。

個別支援室としては、今後は派遣決定の際の事前の顔合わせに極力保護者が同席するようなシステムや、支援体制に重大な支障がある場合の参観などを、行政との話し合いで確実に進めていくこと。また定期的な個別面談を実施し、学習支援員の精神的なバックアップの機会として明確に位置づけるといったフォローを行っていくことが必要である。

キーワード：通常の学級における支援、特別支援教育支援員、学習支援員の養成とフォロー

# 通常学級内における発達障害を持つ 児童生徒に対する支援

～東京都港区の学習支援員制度、その制度の定着、継続そして各地域への普及～

企画者：藤堂 栄子 (NPO 法人エッジ会長)  
司 会：藤堂 栄子 (NPO 法人エッジ会長)  
話題提供：上田 恭子 (港区個別支援室相談員)  
：大庭 亜紀 (港区学習支援員)  
：吉田 やすえ (ディスレクシア協会名古屋)  
指定討論者：緒方 明子 (明治学院大学教授)

東京都港区教育委員会では平成 18 年より全国に先駆けて行政と NPO が協働して学習支援員の制度を取り入れ、通常学級における高機能自閉症、広汎性発達障害、ADHD や LD / ディスレクシアを持つ児童生徒への支援を行っている。本シンポジウムでは本制度の特徴、効果、及び実際の支援の場面からの実践について、また各地へ普及するなかで名古屋における実践について話題提供をして課題を検討する。

## 港区の学習支援員制度

この制度は単に通常学級内に支援員を配置するだけではなく、事前の十分な検討、関係各署の連携、保護者からの要望、支援員の育成事業、配置されてからの支援員の継続的な研修、月次の支援内容及び計画の報告なども含んでいる。

システムが動き出してから 5 年目に入っているが、この間に平成 19 年度と 20 年度の二年間にわたり文部科学省から委託を受け実践研究として、このシステムと支援員が入ることによる効果測定を検証した。

一年目は保護者、教員、支援員三者に対してのヒアリングとアンケート調査でシステムに対しての期待、満足度などを尋ねた。また、支援員が入ったことに対する満足度はおおむね高かった。

結果として出てきたのは対象となる児童生徒の周囲の大人の理解啓発、連携、コミュニケーションの必要性であった。また、システムとし

てもより安定感のあるものにしていく必要性も論じられた。70 ケース近くが対象であったが、対象児の状況に関しては悪くても「変化なし」でほとんどのケースで改善が見られた。これは放置していたら不登校や状況の悪化が予測される児童生徒たちに関しては画期的なことだった。

二年目は学年、性別、ニーズ等の異なる 8 ケースを取り上げ、より丹念に調査した。その結果分かった事は皮肉なことに効果の測定は一人ひとりの児童生徒のニーズ、学校や教師の態勢、支援員の経験や性格、家庭や保護者の考え方等の状態によって左右される不確定要素が多く、数値化することが大変困難であるということであった。

## 港区の制度の特徴

- 1) 支援員の育成事業：(14 日間で理論、実践、当事者の話、地域の特性などを学ぶ) これまでに 8 回計 234 名が講座を修了している。
- 2) 個別支援室でフォロー、支援員が作成する毎月の支援計画。
- 3) 保護者からの申し出、保護者の了解。
- 4) 次の年度の 5 月まで継続 (級友、担任、教室、教科書すべてが変化する中で同じ支援員が支援することで、大きな安心感となる)。
- 5) 二次障害などが出る前から支援 (4 年目からやっと入学前からの支援が始まった)

## 支援員が入ることの効果

一人ひとりの生徒のニーズも学校の状況も支援員も異なるので数値化して効果を測ることは困難であるが、4年間の活動を通して下記のような効果が見られた。

- 1) 不登校になる児童生徒はいなかった。
- 2) 2、3年で支援を必要としなくなるケースも多い。
- 3) 啓発に役立った。
- 4) 対象となる児童生徒だけではなく、ほかに支援を必要としている児童生徒へも支援が広がる。
- 5) 教員の気づきの目が養成された。
- 6) 支援員が入っている様子を見て、支援員を志願する人が増えている。
- 7) ケースによっては主要教科のテストが平均で10点も上がることもある。
- 8) いじめなどを未然に防ぐ。

## 支援員による支援の現状

学習支援員の役割は指導ではなく支援を主眼に置き、あくまでも担任の補佐をしながら対象児童生徒の学習の支援をする。そのためにはまずはその学級内での対象児童生徒のニーズや行動のもととなっている問題に気づき、その解決に向かって学内で連携をとり、担任の指示のもと動く。また、環境整備も大切な任務である。具体的に共通して行っていることは下記のとおりである。

- 1) 一人ひとりの児童生徒が通常学級内で生き生きと過ごし、学級活動に取り組めるように工夫。
- 2) 個別の指導計画の中で位置付け。
- 3) それぞれの月次計画でその月の目標を設定、目標設定の背景、そのための手立てと効果、そして次の月の目標を立てる。

支援員は20代から60代前半まで、大半が女性である。学習支援員になるための資格要件としては高卒程度以上、健康であることのみである。個別支援室では児童生徒の

ニーズを見ながら、支援員とのマッチングにも配慮する。多くの支援員が様々な工夫をして、児童生徒が自分のよさや好きなことを見つけることや、いいことをした時にすぐに認める、自分で困った時に助けを求めることや、わからない時に担任に尋ねる、ルールを分かりやすく説明するなどの支援をしている。大きな目標は自立である。

当初は懐疑的であった教員も4年経つうちに、支援員との連携をうまくとり、役割分担をしてくれるようになってきている。また、人事異動などがあっても前任校でやっていた「グッド・プラクティス」（良い実践）を継続してくれている教員も多くいる。

また、教育委員会では支援員の査定を各学校に依頼している。ほとんどがAまたはB評価であり、チームの一員として力を発揮してくれている様子がうかがえる。

## 制度の普及

国の予算でも平成22年度でも450億円が特別支援教育支援員の為に用意されている。日本全国津々浦々すべての公立小中学校に支援員を一人はおける計算である。しかし、ほとんどの地域で十分な研修もしないまま、ただ人員配置だけをしているのが現状である。下手をすると対応によってはかえって状況が悪化する事さえあるだろう。

NPO法人エッジでは港区における取組をモデルとした制度を広げるために日本財団の助成を受け、平成21年度から活動を始めている。明石、川越、名古屋と宮崎にあるNPOや親の会に呼び掛け、リーダー研修を東京で行い、その後各地で二日間の地域における支援育成講座と啓発講座を地域の団体が開催した。これは「東京」それも「港区」だからうまくいくのではなく、このモデルをもとにそれぞれの地域に根差した、地域のリソースを活かした普遍性のある制度、システムの構築を目指した。明石や名古屋ではすでに支援員育成講座を開催して、学

校への派遣が始まっている。まだ緒についたばかりだが、名古屋の取り組みを通して工夫や調整を検討する。

## 課 題

学習支援員を通常学級内で活用する上での課題としては学校の態勢として少なくとも個別指

導計画を学校内で作れること、その枠の中で学習支援員の位置づけを明確にすること、地域のリソースを活用すること、またそれを普及するための連携などがあげられる。

キーワード：学習支援員、通常学級内支援、NPO と行政の協働

# LSA リーダー研修

—川越、宮崎、明石、名古屋—

## 特別支援教育、効果的な支援システムを学ぶ

エッジでは港区で定着したLSA制度を日本全国で展開するため活動をしています。2009年は川越、宮崎、明石、名古屋の4箇所の方たちと連携してリーダー研修とLSA育成講座の一部を開催しました。

6月に港区内の取り組みやシステムについての研修をした後、各地で2日間のセミナーを開催しました。

### 川 越

NPO 法人チューリップ元気の会  
溝井 啓子

藤堂栄子先生の二日目の講演会、午前は「LD疑似体験」でした。

いろいろやった中で、一番大変だったのが、ひらがなが規則正しくならんでいるものの、縦読みすべきなのか？ 横読みすべきなのか？どこから読み始めればいいのかわからない文。

漢字交じりの文章ならまだしも、ひらがなだけでは何のことが書いてあるのかわからないので、ただの文字の羅列にしか見えない…(@\_@)

なるほど、読字LDの子どもたちは、普段こんなカンジに見えているのか…そりゃあ、教科書の文字を追うだけでも大変だよな…と、困難さがよくわかりました。

「LDの子たちは、復習よりも予習の方が有効。でも慣れても、正確さを増すことはできても、速度を増すことができない」「授業に必要な物を準備する話をさせる時は、“使う目的を伝える”“時間割通り伝える”など、できるだけ詳しく、しかも簡潔に」…など、LDの困難さへの対応方法・支援方法などを、わかりやすく講演して下さいました。

(チューリップ元気の会理事の感想)

当会の理事さんでも「LD疑似体験」を試してみ

たのが初めてだということで、今回は皆さん本当に良い体験をさせて頂いたと感謝しております。

また、3名の当事者のお話は興味深く、我々が如何に既存概念に縛られ日々の生活を送っているかという事を考えさせられました。感性豊かなお話を聞いて楽しいひと時を頂きました。

ありがとうございました。

### 宮 崎

宮崎LD・発達障害親の会「フレンド」  
河野 明美

宮崎市では、行政、学校現場、当事者、保護者の面々が中心となり、その特徴を生かした講座が開けたと思います。

何より藤堂さんのポジティブなお話が、多くの人に励みとなったようです。また疑似体験も、本人たちの困り感を理解しただけでなく、実際自分が「分からない、置いて行かれる…」という苦しい思いをしたという声が結構上がり、これからの行動へとつながる有意義な体験だったと感じました。

そして最後に一人一人が自己紹介をし、一言ずつ感想を言う場面では、泣く人あり、思いのたけを語る人あり、これもまた必要な時間だったと思いました。後日、泣いていた人が心配と気遣うメールもいただき、関心があっただけでなく、優しい人たちの集まりだったのですね。

さて今後の展開は容易ではないのは確かですが、この思いを忘れず、それぞれのできることを模索し、自分の分を果たせればと考えています。港区の充実した体制をお手本として…。もっと大きなことを言えば社会全体へと波紋が広がっていくように願います。子どもたちは皆の財産ですから…。

多くの人の協力の下、ひとまずこの講座を終えたことを感謝しています。

## 明石

NPO 法人市民サポートセンター明石

代表 田坂美代子

10月3日は「LD 疑似体験と当事者の声」を藤堂栄子さんの講師で開催しました。4月に開設された「明石市立発達支援センター」と共催できたこともあり、真新しい会場に兵庫県内12市3町から93名の参加がありました。保護者、教員、行政職員、議員、支援者など実に様々な方から「子どもの困り感が多少なりとも分かった」と大好評でした。

明るく4日は、会場を替えて「港区における特別支援教育と学習支援員の成果 Part II」を実施。藤堂さんには、昨年に引き続いてお話いただき、合わせて実際に学習支援員として仕事をされている木村綾子さんの具体的なお話を聞くことができました。3年間に及ぶ様々な工夫とエピソードは、これから活動したいという方々にとって学ぶものが大きく、勇気づけられました。

文科省の特別支援教育調査官である樋口一宗さんからは、多くの資料から分かりやすい説明をいただきました。最後に、「それぞれの地域で一步前進するために」と題してパネルディスカッションを行いました。たくさんの質問をいただき、大変充実した研修となりました。

## 名古屋

ディスレクシア協会名古屋

吉田やすえ

昨年の11月24日、『特別支援教育、効果的な支援システムを学ぶ！—東京都港区の取り組みから—』と題して、1部は藤堂会長にご講演をしていただき、2部は、深川さんに当事者からのお話をさせていただきました。会場は満席で、中日新聞社の取材が入るといった大盛況ぶりでした。藤堂会長のご講演は、3度目になります。当初の頃は、「学習支援って、なに？」で藤堂さんをお迎えしました。NPO法人「エッジ」の学習支援員の事業が成果を出されて全国から注目的になるにつれ、エッジに何度か勉強に伺いました。学習支援員のレベルアップを継続的にされ、学校環境整備の連携もする、まさに当時者の目線で必要なことを実現されている。素晴らしいご活動ですが、それは藤堂会長だからできること、と叶わぬ夢でありました。しかし、今回の講演会は、この2月・3月に当地の「学習支援員の養成講座」を開催する準備のためにお越しいただきました。お会いするたびに、夢を実現していく力をいただける不思議な方です。また、ご提供いただいた「LD 疑似体験とお話」のプログラムも、学校現場で「目から鱗です！」と非常に好評です。

藤堂会長を始め NPO 法人エッジの皆さまに心から感謝をしております。

この活動は日本財団の助成を受け開催されました。



# LD 学会での取り組み

個別支援室相談員 上田 恭子

2010年10月、愛知県立大学において、日本LD学会第19回大会が開催されました。今年の大会テーマは「通常学級における特別なニーズを持つ子ども達の支援」ということで、まさにエッジが港区と協働で取り組んできた「学習支援員制度」とも深い関連のあるテーマです。

そんなわけで、今回このLD学会に、自主シンポジウムの主催と、個別支援室によるポスター発表という形で参加しました。

自主シンポジウムでは、「通常学級内における発達障害を持つ児童生徒に対する支援」と題して、この学習支援員制度の概要や特徴、また今、東京都港区ではどのように定着しつつあるのか、それを継続させ、更に各地域に普及させていくためには、どのような取り組みが必要なのか、等を話題に取り上げました。現役の港区の学習支援員や個別支援室の相談員、また、この制度を全国に広めるために活動しているディスレクシア協会名古屋の会員による話題提供をもとに、議論を深めていきました。また、港区の学習支援員制度に発足以前から関わってくださっている明治学院大学の緒方明子先生にも、指定討論者として参加していただき、様々な示唆をいただきました。

またポスター発表は、エッジと港区とが協働で立ち上げた個別支援室による「効果的な活用につ

ながる学習支援員の養成とフォロー」というタイトルでの発表でした。個別支援室では、学習支援員の養成を14日間にわたって開催しており、それを全て受けることが、港区で学習支援員として働くための要件になっています。この養成講座の内容の見直しを、アンケートを実施することにより捉えたのが、本研究です。また、技量の向上のためにフォローアップの講座も実施してきていますが、現場で活動する学習支援員が、実際の支援にあたって、こういった知識や技能を必要としているかを、やはりアンケートから捉えました。現場ですぐに役立つ知識や実践につなげやすい内容、また学習支援員相互による事例の検討などが高い支持を得ました。

更に、今後必要とされるフォロー体制の改善に関しても、学校現場における人間関係の作り方などで悩む学習支援員の姿も浮かびあがり、今後の講座の内容の精査や、より学習支援員の立場によりそったフォローへとつなげていきたいということを確認しました。

このLD学会での発表を一つの節目として捉え、今回の発表で得られた新たな知見を、今後の学習支援員制度の継続や普及への取り組みに、ぜひ生かしていきたいと考えています。

**発達障害を持つ児童生徒を対象にした  
学習支援員の地域普及モデル事業の実施**

発行日：平成 23 年 3 月 31 日

発行者：特定非営利活動法人エッジ

東京都港区浜松町 1-20-2 村瀬ビル 3F

TEL. 03-6240-0670・0672

FAX. 03-6240-0671

<http://www.npo-edge.jp>

E-mail:[edgewebinfo@npo-edge.jp](mailto:edgewebinfo@npo-edge.jp)